

【京田辺市】
校務D X計画

1 趣旨

本市教育委員会では、G I G Aスクール構想の下、令和2年度から全ての小中学校において1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの構築、クラウドサービスの活用などのI C T環境を整備し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成や探究的な学習活動の充実につとめてきました。また、教職員においても研修会への参加や保護者と学校をつなぐ連絡ツールの活用・ペーパーレス化などの業務改善を行ってきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。そのため、「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ教育委員会及び学校が教育D Xを推進する際に取り組むことが望ましい項目及び解決策について以下のとおりまとめ、更なる校務D Xに係る取組を進めることとします。

2 京田辺市における課題及び取組について

「G I G Aスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和8年3月9日公表）を踏まえ、京田辺市における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務D Xの推進を図っていく必要があります。

(1) クラウドツールの一層の活用

教職員の業務負担を更に軽減するため、既存のクラウドツールの一層の活用を促進します。具体的には、クラウドサービスを用いた、便り等の配布及び保護者から学校への資料の提出

(2) F A Xでのやり取り・押印の見直し

F A Xの使用ならびに押印実施の現状については、やむを得ない場合を除き使用していない現状である。引き続き、やむを得ない場合除きF A Xや押印の実施については実施しないことを徹底する。

(3) 校務系・学習系ネットワークの調査・研究

校務系ネットワークと、学習系ネットワークは分離されており、セキュリティに関するルールも異なり、データ連携が簡単ではない状況なので、今後も、校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。

(4) 次世代校務支援システムの在り方検討

各小・中・義務教育学校では、京都府市町村教育情報化推進協議会のもと、京都府全域で統合型校務支援システムの共同調達を進めている。しかし、現行システムはネットワークが分離された SaaS (ASP) 型 (※2) で運用されており、学習系データと校務系データの連携ができない課題がある。この課題を解決するため、今後は各自治体の事例を参考にしつつ、校務系と学習系ネットワークを統合

したクラウド環境での校務運用を目指し、教職員が働きやすく、児童生徒が学びやすい環境の整備を検討していく必要がある。

校務支援システムへ新入学児童の名簿を登録する際、教育委員会が保有する就学予定者情報を基にしながらも、各学校において再入力作業が発生している現状がある。

このため、小学校に入学する児童の名簿情報登録業務を対象に、データの一元管理および一括取込の仕組みを構築し、不必要な手入力作業の削減を図る。具体的には、教育委員会が保有する学齢簿情報を基礎データとし、当該データを修正することなく、コピー&ペーストやCSV形式による一括取込等により校務支援システムへ登録できる運用へ転換する。